

歴史探訪

クラブ

其の
130

History Inquiry Club



文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

2つの観光パンフレットから

田原市博物館に『常春の国』と『IRAKO』というタイトルの観光パンフレットが収蔵されています。これらは、現在の豊橋鉄道(株)が渥美半島の観光名所を紹介したもので、半島の地図と、おすすめの観光地や写真が掲載されています。

『常春の国』は、伊良湖港や伊良湖から石門までの道路、田原温泉の表示がないことから、昭和26年ごろのものだと推測されます。また『IRAKO』は、印刷された社名や田



▲『常春の国 渥美半島 御案内』パンフレット(部分) 表2色、裏1色

原郷土博物館(現在二の丸槽)が書かれていないことから、昭和29年7月から昭和33年までの間に発行されたものと考えられます。『常春の国』から『IRAKO』とこうキャッチコピーに代わっているのが、渥美半島の観光は、伊良湖岬周辺を中心に展開しようとしたことがわかります。

『IRAKO』のパンフレットには、ガイドが同乗した周遊の観光バスが毎日運行されていたことも記され、

自家用車が普及していない時代の観光地「伊良湖」の戦略がよくわかります。海水浴場は、片浜や馬草、弁財ヶ浜(折立町)にありましたが、現在ではここに記された海水浴場は残っていません。ハイキングコースや釣場、そこで釣れる魚種も記され、常春の国の言葉に代

表される渥美半島にしかない自然の景観や恵み、歴史を楽しむ観光が狙いだったようです。

●主な観光施設のオープンなど

- 昭和36年…渥美フラワーセンター(伊良湖フラワーパーク) ※H17年閉園
- 昭和37年…シーサイドゴルフクラブ
- 昭和38年…伊良湖鳥羽間フェリー就航
- 昭和39年…蔵王山展望台
- 昭和41年…伊良湖海水浴場 国民休暇村伊良湖
- 昭和43年…伊良湖ビューホテル
- 昭和45年…伊良湖港湾センター

このように、時代の要望にあわせて施設の整備が進み、観光の戦略が大きく変わってきたことがわかります。



▲『IRAKO 渥美半島』パンフレット(部分) カラー印刷

す。これらを機に、渥美半島への観光客は、昭和の終わりごろまで増え続けました。

このパンフレットから、渥美半島の観光の原点を見た気がします。(増山)

今月の「表紙」

▼伊良湖神社で大晦日から元旦にかけて行われる火祭り、「ごせんだらまつり」。昔から豊漁や無病息災などを祈ってきたのだそうです。男たちが燃え上がる炎を飛び越えるクライマックスは大迫力。私もカメラを構えながら、飛び散る火の粉を浴び、今年の平安を祈りました。(〇)

【表紙の写真】(ごせんだらまつり)伊良湖神社